

平成30年3月15日 中部経済新聞に掲載

(この記事・写真は中部経済新聞社の許諾を得て

転載しています)

国際理解へ外国人講師

中村高 生徒700人が聴講

愛知県立中村高校(名古屋市中村区菊水町、小菅順一校長)は14日、外国人講師による特別授業「中村地球市民教室」を同校で開催し、1、2年生約700人が聴講した。

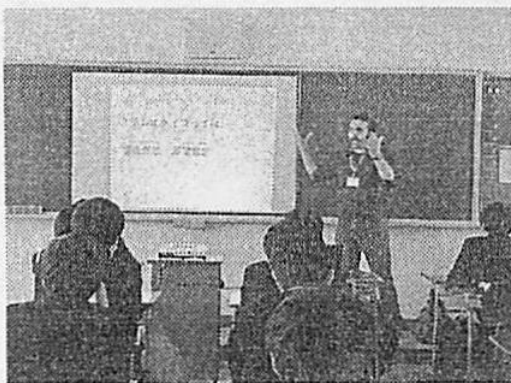
国際理解を深める一環として、毎年この時期に実施。名古屋国際センターの講師派遣事業に登録しているアジア、欧米、南米の外国人18人が各教室に分かれ、母

国文化や課題などを語った。

スリランカ出身のガジャナヤカ・カーンティさんは、「スリランカには、辛い料理が多い。日本のカレーは甘くてお菓子のようだ」と食文化の違いを説明。カーンティさんは「母国を知ってもらえる良い機会。生徒に真剣に話を聞いてもらえてうれしい」と、笑顔を見せていた。

また、シリア出身のフィリップ・ハムウィさんから「シリアのイメージとは」と質問を投げかけられた生徒たちは「砂漠」「サッカー」など積極的に答えていた。

小菅校長は「世界の異文化を知り、若いうちから国際理解を深めるきっかけをつかんでほしい」と話していた。



各教室で外国人講師が授業を行った